

植物

種名	カミガモソウ (<i>Gratiola fluviatilis</i>)
指定の理由	ニホンジカの食害により絶滅のおそれがある。
形態	湿地に生える一年草。高さ10-30cm。葉は対生し、葉柄は4-10mm。葉身は卵形または倒卵形、長さ15-40mm、幅7-20mm、3脈あり、鈍頭。花は8-10月、茎の上部の葉腋に各1個つく。開放花と閉鎖花がある。萼は5深裂、花冠は白色、筒型で長さ5mm。
生育分布状況	高知県内では室戸市でのみ確認されている。
種の存続を脅かす要因	ニホンジカによる食害
保護に関する指針	県内全域において知事の許可を受けた場合以外は、当該種の採取等を禁止するものとする。
高知県レッドデータブック掲載状況	CR(絶滅危惧ⅠA類)
高知県希少野生動植物保護基本方針該当項目	ア その存続に支障を来す程度に個体数(生息・生育密度含む)の減少が顕著な種 イ 生息・生育地における環境条件が著しく悪化若しくは消滅しつつある種



写真提供: 高知県立牧野植物園

参考文献

- ・大橋広好(2017)オオバコ科オオアブノメ属. In: 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩(編). 日本の野生植物5. p.75. 平凡社. 東京.
- ・赤井賢成, 三宅尚, 三宮直人, 小林史郎, 永益英敏(2005)高知県室戸市で確認されたカミガモソウ *Gratiola fluviatilis* (ゴマノハグサ科)の新産地とその生育状況. 植物地理・分類研究 53(2):207~211